

## <事務局からのお知らせ>

### ◆未来共創イニシアティブ参加規則改定のお知らせ

皆さまには別途メール（12月26日付）にてご連絡しておりますとおり、2025年4月1日付けでICF参加規則の一部改定を予定しております。ご理解のほど何卒よろしくお願い致します。

変更点は以下のとおりとなります。

条項	現 在	改 定 後
会員種別	一般会員（ベンチャー）	一般会員（ <u>スタートアップ</u> ）
第2条2項（3） 一般会員 （スタートアップ）	独自アイデア・技術をもとに新ビジネス展開する独立小規模事業体	独自アイデア・技術をもとに <u>新ビジネスを展開し、成長を指向する独立小規模事業体</u>
第12条	当社及び会員は、・・・（中略）・・・ ただし、 <u>当社は、会員が当社に届け出た情報（以下「会員情報」といい、個人情報を含む）を本会の存続期間満了若しくは終了後又は会員の退会後も1年間保有することができる。</u>	当社及び会員は、・・・（中略）・・・ ただし、 <u>当社は、会員情報を本会の存続期間満了若しくは終了後又は会員の退会後も1年間保有することができる。</u> ※第11条2項で既に「会員情報」について定義のため削除
付則第1条	本規則第2条第1項の規定にかかわらず、 ・・・（中略）・・・未来共創イニシアティブの「一般会員（賛助）」の会員資格を取得する。	※表も含めすべての文言を削除
【別表1】 年会費	会員種別 一般会員（企業） 年会費（税別） 金5万円	会員種別 一般会員（企業） 年会費（税別） 金10万円
【別表2】 一般会員（企業） から共創会員への資格変更	会員種別 一般会員（企業） 支払額（税別） 金95万円	会員種別 一般会員（企業） 支払額（税別） 金90万円

## <10～12月活動報告：総会・セミナー>

### ◆「ICF中間報告会」（10/18）

事務局より、2024年度上半期の活動実績と下半期の予定を告知するとともに社会課題解決型ビジネスの新たな事業化・市場形成手段に関する考察について、話題提供をおこないました。

また、社会課題解決に向けた官民連携の取り組み事例をICF会員（株式会社With The World、京都市、神戸市、株式会社ソーシャル・エックス、株式会社machimori）からご紹介いただきました。

詳細は、[開催報告](#)をご覧ください。

## ◆「ICFオンライン座談会」(11/8、11/27、12/11、12/24)

社会課題解決に資する様々な活動に取り組む会員等に、実際の活動内容をご紹介いただき、課題解決のヒントを探る「オンライン座談会」を11月より開始しました。毎回テーマを設定し、座談会形式により、参加者からのご質問なども交えた、双方向コミュニケーションの場づくりを目指しています。新たな共創テーマ探索にもつながるオンラインイベントです。

### 第1回(11/8)「地域創生」

株式会社ゲイトと株式会社machimoriの代表者より、これまで10年以上にわたる事業取組についてご紹介いただきました。両社の事業内容や活動地域は異なりますが、「持続性」「再現性」の観点から多くの共通事項があることが確認できました。

「持続性」では、地元企業との協働推進体制構築のほか、ビジネスで課題を解決する視点を捨てないこと。また「再現性」では、急激な成長は求めず、スモールビジネスからのスタートを強く意識することなどが重要視点としてあげられました。

(地域創生テーマについては、今後ともシリーズ化して検討していく予定です)

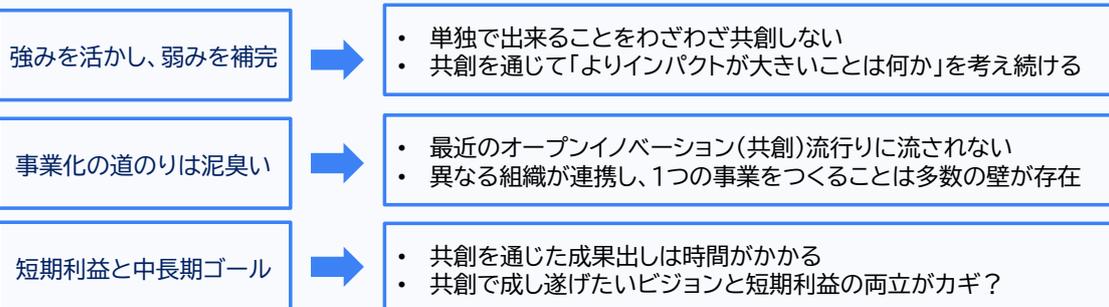
### 第2回(11/27、12/11)「インパクト測定」

「入門編」(11/27)ではトークンエクスプレス株式会社 紺野氏より、社会的インパクトの考え方やインパクト測定活用の実態についてご解説いただきました。

続く「応用編」(12/11)では、株式会社NTTデータ 森田氏もお招きし「インパクト測定と共創マネジメント」に関する実践事例をご紹介いただきました。実際の活動を通じた重要な「気付き」として、『大義』と『言語化』が大変重要だとのこと指摘。共創の大前提となる「なぜ自社がその課題に取り組むのか?」(=大義)、および「困っている人々のイメージを伝える」、「そのソリューションが具体的な課題解決につながることを伝える」(=言語化)ということに関する重要性です。

また最後には、今回の主テーマである「インパクト測定を活用した共創活動の円滑な推進」(共創のマネジメント)に関する有用性と可能性について再確認されました。詳細は[開催報告](#)をご覧ください。

#### ▶共創活動の実践を通じたインサイト



### 第3回(12/24)「核融合」

第3回は「核融合」を取り上げました。核融合は、近年改めて注目される新エネルギー候補です。核融合反応を起こす3つの要素(閉じ込め、密度、温度)に着目した、長い技術開発の歴史を経て、徐々に実用化に向けた産業化・市場化の議論が盛んになっている分野です。

今回は、京都大学発の核融合スタートアップである京都フュージョニアリング株式会社 井野氏をお招きし、核融合産業における同社の取り組みのほか、同社がリードする国内の発電実証プロジェクト「FAST」をご紹介いただきました。

フリーディスカッションでは、多岐にわたる要素技術開発の必要性、産業として成立させるための国内核融合サプライチェーン構築の本格化、その実現までの長期大型プロジェクトを支える多額の資金調達の必要性と難しさなどが話題となりました。ICFでは今後、日本の核融合サプライチェーンの裾野を広げ、新エネルギー供給市場の拡充に資する共創活動を推進していく予定です。

## <10～12月活動報告：社会課題研究>

### ◆「SFプロトタイピング×未来の社会課題検討ワークショップ」(12/12)

現在、『イノベーションによる解決が期待される社会課題リスト2025』（以下、社会課題リスト）を2025年3月発行に向けて制作中です。

社会課題リスト検討の一環として、SFプロトタイピング研究で国内最先端を走る慶應義塾大学の大澤研究室と連携し、未来の社会課題を検討するワークショップを開催しました。参加者が興味・関心のある語句をランダムに組み合わせ、2050年の新たなサービスを想定し、サービス内容やそれによりもたらされる負の影響を具体的に考えることで、**未来の新たな社会課題を設定**する試みです。

参加者からは多様なサービス案が提案されました。例えば「液体ロボット」。ヒトやキャラクターの姿を自在に創り出すことができ、液体だからこそスペースの有効活用にもつながります。一方で、原料となる水が少ない地域での価格の高騰や、動画像のディープフェイクが進化し、自在に変形できる液体ロボットが誰かに成り済ますような犯罪が発生する懸念も指摘されました。このように、新たなサービスの活用が未来社会に及ぼす影響を具体的に考えることで、**未来を創造する楽しさと難しさ**を体感できました。

本ワークショップを始め、未来における様々な課題の抽出を重ねるなかで、特に蓋然性が高いと思われる、**新たなテクノロジーがもたらす課題**について、社会課題リストのなかでコラムとして掲載予定です。（未来志向の社会課題検討に関する取組は、今後も継続して実施予定です）



ワークショップの様子

## <10～12月活動報告：社会実装研究>

### ◆パブリックアフェアーズ（PA）共同実施プロジェクト

過去2回にわたりPAの理解促進を図るセミナーを開催。これを受けて、実際の企業経営、事業開発の戦略ツールとしてのPA活用を志向するICF会員の方々を募り、PAワークショップ（WS）がスタートしました。（'24年12月～'25年3月まで、全4回の開催を予定）

【起案】株式会社Next Relation、ICF事務局

【参加企業】株式会社NTTデータ、日本電気株式会社、パーソルテンプスタッフ株式会社、

株式会社三井物産戦略研究所、株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス  
本WSでは、新市場開拓を含む社会課題解決型ビジネスの企画→開発→社会実装を戦略的に進め、そのために戦略立案段階からのPA（戦略フレーム）のビルトインを実践・強化することを狙いとしています。最終成果物として、PAの普及に向けた実践・具体性のある「ガイドライン（手引き）」の検討・作成を予定しています。

12月13日に開催した第1回では、各社から事前にPAとして取り上げたいテーマを提示いただき、そのテーマをなぜ選んだのか、どんな価値を生み出したいのか等について発表いただきました。次回は各社がそれぞれの持ち込みテーマの政策分析を実施し、発表、参加メンバーに情報共有いただく予定です。

## <10～12月活動報告：事業共創活動>

### ◆「COP29速報&カーボン・クレジットDeep-Dive Workshop」

カーボンニュートラル実現の一つの手段となるカーボン・クレジット市場は、国内では未だ市場黎明期にあります。こうした市場環境を捉え、ICFではカーボン・クレジット需要側/供給側の様々なプレイヤーが課題や共創アイデアを持ち寄り、共有できるエコシステムの構築を目指し、6月より全3回でディスカッションイベント「Deep-Dive Workshop (DDW)」を開催しました。

11/29に開催した第3回DDWでは、11月にアゼルバイジャンで開催されたCOP29に関する当社研究員からの報告、および「カーボン・クレジットのエコシステム創出に向けたアクションを考える」と題したパネルディスカッションを実施しました。

「黎明期のこのタイミングで一歩を踏み出し、少額でも調達活動に動き出す“Hero”になりませんか」というパネラーからの呼びかけが印象的でした。当日の様子は以下からご確認いただけます。

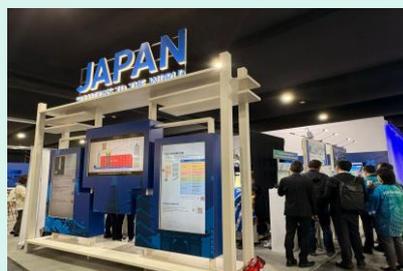
- ・第3回DDW速報（投影資料のリンク）：<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-20464/>
- ・アーカイブ動画（1/17までの限定公開）：<https://www.youtube.com/watch?v=8qeHYQ5EMyK>



COP29速報



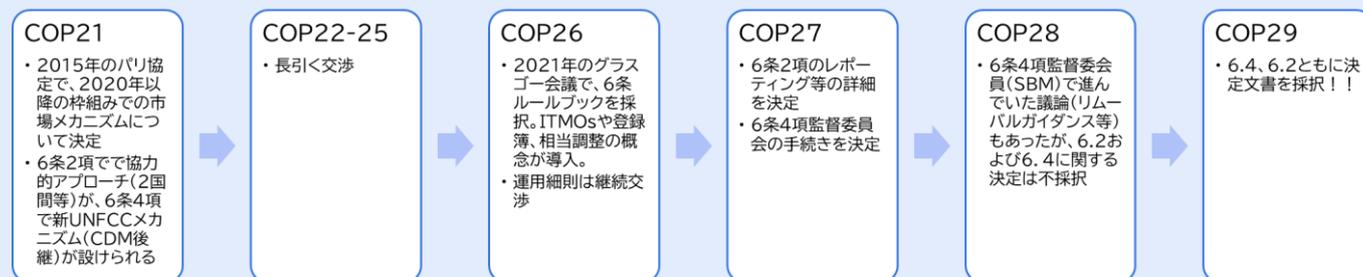
パネルディスカッション



COP29Japanパビリオンの様子  
MRI撮影@アゼルバイジャン

### <COPにおけるパリ協定第6条の交渉経緯>

（第3回DDWではこれまでの経緯を踏まえてCOP29の妥結事項を解説しています。ぜひご覧ください）



出所) UNFCCC各種資料からMRI作成

ICFはこれまで、カーボン・クレジット関連のイベントを開催する際、スポットでクレジットを調達することでイベントのカーボンオフセットに取り組んできました。

さらに現在は、三菱総合研究所としてカナダのアクセラレータ“MaRS”が主催するカーボン・クレジットのPre調達プログラムに参画し、ネガティブエミッション技術から生み出されるプロジェクトに投資し、当該プロジェクトが将来生み出すカーボン・クレジットを先行調達する取り組みも始めています。

今年度、3回にわたるDDWには、延べ600名を超える大変多くの皆さまにご参加いただきました。また、第2回DDW(9/20)の様子がNHKスペシャルにて放映されるなど、これからの市場活性化に向けた機運醸成につながるものと確信しております。

今後は2025年4月を目途に、以下三点を軸に活動を継続してまいります。

- ①これまでのDDWで得られた成果の整理・発信
- ②三菱総合研究所が取り組むクレジットのPre調達プログラムでの学びの共有
- ③会員の皆さまからの具体的なアクションの共有

## ◆「産学連携による女性のためのライフキャリア×ヘルスケア講座」

“女性の活躍”は、ICF「[社会課題リスト](#)」や「[Business Acceleration Program \(BAP\)](#)」において、重要な社会課題の一つとして取り上げられ、これまで継続検討されてきたテーマです。

今年度は、女性の活躍推進、さらなる活性化のために、非正規（有期雇用、パート、派遣）・非就業の女性に焦点をあて、実証実験としてリカレント教育講座を実施しました。

活動を通して、ターゲット層の労働市場での活躍、正規雇用比率のL字カーブ※解消を目指しています。

※L字カーブ：縦軸を女性の正規雇用比率、横軸を年齢階級とする折れ線グラフを描くと、20代後半をピークに急低下していく形状がアルファベットの「L」のようなカーブに見える

### ●●●●● 講座の概要・形式 ●●●●●

さまざまな理由でキャリアが中断・停滞している女性が抱える心理面や健康面、技能面の課題解決の糸口を捉え、その解決策の手段を習得できるリカレント教育プログラムを提供。

- ▶ 座学（対面）：ライフキャリア、ヘルスリテラシー、ソーシャルコミュニケーション
- ▶ 実践（対面）：無償労働スキルも考慮したスキル診断・ライフキャリアプラン構築、健康セルフマネジメント体験

【実施体制】 梶山女学園大学、(株)カランドリエ、パーソルテンプスタッフ(株)、(株)三菱総合研究所

【開催期間】 10月12日（土）～12月21日（土）のうち計12コマ（6日間）



### ●●●●● 本講座の特長と成果 ●●●●●

#### 女性の活躍推進ーキャリアとライフの両立を目指して

女性のキャリアとライフの両立を阻害する最大の要因は、キャリア成長期とライフイベントの繁忙期の重複です。また、女性特有の健康課題もあります。30代～40代は、キャリア継続の壁となる身体的負担が大きい時期でもあり、労働市場から一旦退出するケースが多く見られます。その後、40代～60代は、家庭内労働の負担や仕事以外に起因する「私にはもう無理」という心理的ハードルから、退職前に形成したキャリアに相応しいポジションへの復帰を断念するケースが少なくありません。

#### 無償労働スキルも考慮したスキル診断

本講座では、育児や家事、介護などの“無償労働”の経験は、仕事におけるアクティビティと共通事項が多いことを可視化するプログラムも盛り込みました。スキル診断では、過去に経験した業務内容に基づく診断結果よりも、無償労働経験も踏まえた個人の能力値や適正職種が可視化されたことで、能力値の向上や適正職種の選択肢が広がる受講生が多くいらっしゃいました。

理想のライフキャリアの実現には、必要な知識や個人の強み、今後リカレント教育で学ぶべきポイントを整理したうえでの、ライフキャリアプランの構築が有効です。最終回では、本講座の学びを踏まえ、仕事・プライベート・社会活動の軸での具体的なアクションプランを発表いただきました。

終了後は、実際に、人材エージェントへの登録希望やさらなるリカレント教育への意欲を示す声も聞かれ、再就職する意欲・自信が高まっている、再就職後も継続的に活躍できるマインドが醸成され、実際に行動変容につながっていることがわかりました。

### ●●●●● 今後の展開 ●●●●●

多様な女性の活躍推進に共感いただける企業・大学などと連携し、さらなる取り組みの拡大を予定しています。正社員女性だけでなく、非正規・非就業女性の労働市場での活躍を通して、真の女性活躍推進を目指します。講座詳細は[ニュースリリース](#)をご覧ください。

## ◆大阪・関西万博のレガシー創出に向け、社会課題解決に関する出前授業を実施

三菱総研グループは、内閣官房の教育事業「EXPOスクールキャラバン」に参画し、全国の学校で社会課題解決に関する出前授業を支援しています。三菱総合研究所は、リーントテクノロジーズジャパンとともに「AIを使って社会課題解決のアイデアを検討しよう」をテーマに、AIアシスタントと対話しながら検討するワークショップ型授業を制作。11/26には山形県立南陽高校で実際に授業を実施しました。

(※詳細は、[ニュースリリース](#)をご参照ください) 実施後には、「最新技術に触れるとともに、探究学習の課題探索やインタビュー調査実施の良き予行練習となった」との評価を同校よりいただいています。

## ◆バーチャル避難訓練

[BAP2023優秀賞を受賞された株式会社ジオクリエイツ](#)及び日建設計の協力のもと、11/28に三菱総合研究所にてバーチャル避難訓練\*を試行しました。参加者114名のうち、54%はこれまで当ビルのリアルでの避難訓練に参加したことがない社員でした。本訓練によって、「避難経路が確認できた」「避難する際の建物の構造が理解できた」などのコメントが寄せられました。

本訓練で収集した分析結果のフィードバックを今後の当社避難訓練に活かしていくほか、ツールの改善など含め、新たなバーチャル避難訓練市場創出に向けた同社との共創活動を継続して進めていきます。

\*バーチャル避難訓練：360度カメラでオフィスを撮影しVR化した映像を用いてオンライン上で実施する避難訓練

## ◆地域での取り組み（関西・中部）

9月に関西地域のICF会員約10社・団体を往訪したことを契機に、グラングリーン大阪内の立命館大学の施設（[ROOT](#)）をお借りし、2/19（水）にICF共創活動報告会を開催することになりました。

さらに、10月には中部地域のICF会員約10社・団体を往訪し、ICFの活動について日頃感じている事やニーズをヒアリングさせていただきました。その結果、「社会課題リストへの関心が高い」「ICFイベント参加は出来ていないが情報は欲しい」「ICFの使い方が理解できていない」などのご意見をいただきました。その後、12月に中部経済連合会を訪問し、ICFの紹介をするとともに、「産学連携による女性のためのライフキャリア×ヘルスケア講座」への協力もお願いしました。

引き続き、地域における会員間のネットワーク強化やコミュニケーション促進を図っていきます。

## <ICF会員>

10/1～12/31に新規入会された会員数は、8社・団体で、12月末時点での会員数は、638社・団体となりました。

（新たにご入会された会員）

### 【企業】

◇株式会社eje <https://www.eje-c.com>

◇千株式会社 <https://sencorp.co.jp>

◇パーソルホールディングス株式会社 <https://www.persol-group.co.jp>

◇三谷産業株式会社 <https://www.mitani.co.jp>

### 【ベンチャー】

◇株式会社スポーツネーション（イノベーション支援） <https://sportsnation.jp>

◇株式会社DAOWORKS（テクノロジー） <https://daoworks.co.jp>

◇CHANGE ViSiON株式会社（テクノロジー） <https://www.changevision.jp>

### 【賛助】

◇国立成育医療研究センター <https://www.ncchd.go.jp>

（ICF会員一覧）

会員一覧は、ICFサイトをご参照ください。<https://icf.mri.co.jp/member/>

## <1月以降の活動予定>

### ◆1/17開催【特別ウェビナー】「博士の力でビジネスを変える～企業の新たな価値創出に向けて～」

経済産業省・文部科学省による「[博士人材の民間企業における活躍促進に向けた検討会](#)」の開催をはじめ、人的資本経営の観点からも、企業の（研究職以外も含めて）博士人材活用への関心が高まっており、こうした動きは新聞・TVなどでも取り上げられています。

今回ICFでは、国の政策動向、最先端の博士人材育成の取組を紹介し、産官学でのキーパーソンによる、博士人材を活用したビジネスプロセスの変革を考えるウェビナーを開催します。

プログラムの詳細ならびにお申込みは以下のURLからお願いします。

<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-20544/>

### ◆1/30開催「第4回ICFオンライン座談会」

「企業とNPOの共創による社会課題解決」と題して、オンライン座談会を開催します。社会課題に向きあうという点から、以前よりも距離が近づきつつある企業とNPOの連携・共創の意義、可能性等についてディスカッションします。

プログラムの詳細ならびにお申込みは以下のURLからお願いします。

<https://icf.mri.co.jp/activities/activities-20705/>

### ◆2/19開催「ICF共創活動報告会」

2/19（水）15時よりグラングリーン大阪にて、2024年度の共創活動について、会員の皆さまと共有する報告会（ハイブリッド開催）を企画中です

詳細が決まりましたら、改めてご案内致します。

### ◆MRI DEMO DAY 延期

MRI/ICFによる社会課題起点のスタートアップとの共創イベント「MRI DEMO DAY2025」を2025年1月15日に開催予定とお伝えしておりましたが、延期することとなりました。

次回開催についてのご案内は、2025年秋以降に改めてお知らせする予定です。

### ◆事務局の取り組み

- ・ 会員専用サイトを1月リリース予定。会員向けにICF活動のアーカイブ動画や資料等を共有予定です。
- ・ 社会課題リスト2025（P3参照）を3月発行予定。従来の6分野の内容を更新するとともに、「ダイバーシティ（DE&I）」など新たな分野の追加を検討しています。2/19開催予定のICF共創活動報告会にて改訂のポイントをご紹介する予定です。